

令和元年度第2回人間文化研究機構経営協議会 議事概要

- 日 時： 令和元年 11 月 22 日（金） 14：00～16：07
- 場 所： 国際日本文化研究センター第1共同研究室
- 出席者： 大原、岸上、キャンベル、窪田、久留島、弦間、小松、佐藤、佐村、田窪、武田、長谷川、平川、広渡、藤岡、宮崎、望月、安成、山本、吉田、李の各委員
- 陪席者： 二ノ宮監事、大崎機構長特別顧問
- 事務局： 歴博、国文研、国語研、日文研、地球研及び民博の各管理部長、本部事務局の総務課長、企画課長、財務課長、施設課長、その他関係職員

○ 概 要：

議事に先立ち、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認があった。

議 題：

（議事概要）

（1）令和元年度第1回議事概要について（資料1）

機構長から、令和元年度第1回経営協議会の議事概要について報告があった。

（審議事項）

（1）令和元年度人事院勧告に伴う給与改正について（資料2）

窪田理事から、資料2に基づき、令和元年度人事院勧告に伴う給与改正について説明があり、審議の結果、了承された。

（報告事項）

（1）平成30事業年度業務実績評価について（資料無し）

岸上理事から、平成30事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

（2）平成30事業年度財務諸表の承認について（資料3）

窪田理事から、資料3に基づき、平成30事業年度財務諸表について文部科学大臣の承認があった旨の報告があった。

（3）令和2年度概算要求の状況について（資料4）

窪田理事から、資料4に基づき、令和2年度概算要求の状況について報告があった。

（4）人間文化研究機構における研究費の不正使用について（資料5）

岸上理事から、資料5に基づき、人間文化研究機構における研究費の不正使用に係る調査結果について報告があった。

（5）総合人間文化研究推進センターにおける実施事業について（資料6）

窪田理事から、資料6に基づき、総合人間文化研究推進センターにおける実施事業について報告があった。

（6）総合情報発信センターにおける実施事業について（資料7）

佐藤理事から、資料7に基づき、総合情報発信センターにおける実施事業について報告があった。

（7）第1回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者の決定について（資料8）

佐藤理事から、資料8に基づき、第1回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者の決定について報告があった。

（8）「人文知応援フォーラム」の設立について（資料9）

機構長から、資料9に基づき、「人文知応援フォーラム」の設立について報告があった。

続いて、大原委員からフォーラムの代表としてフォーラムの設立経緯及び目的等について説明があり、以下の意見があった。

- ・ 機構内の各機関で行っている事業と連携して活動することができるのではないかな。

(意見交換)

(1) 視察後の意見交換 (国際日本文化研究センター)

経営協議会の前に実施した国際日本文化研究センターの視察について、意見交換が行われた。主な意見は、以下のとおり。

- ・ 多様な国の研究者を意識しているということ、また以前と比べ、研究所としてまとまった発信を行うことに力を入れていることが印象的であった。

(2) 平成 30 年度の事業報告について (資料 10)

岸上理事から、資料 10 に基づき、平成 30 年度に機構が実施した事業等の概略について報告があり、以下の意見等があった。

- ・ これから A I の時代になるにつれ、「知・情・意」の今までの在り方とは異なる全人格的な考えを持つ人が社会、産業界のリーダーとなる必要があるので、そうした要素も含めて活動してほしい。
- ・ 人文知の強調は、人文科学、人文学を推進していく機構の大きな 1 つのミッションとなりうる。また、近年の機構が研究者、組織のネットワーク化など大学共同利用機関が持つ公共的な役割を非常に強く意識して活動していることを評価したい。
- ・ 企業の採用においても、人文知の重要さは認識されつつあり、機構の役割はますます大きくなっている。各機関の研究をどのように発信し認知してもらうかをしっかりと考えて頑張してほしい。メディアに対するアプローチも改善の余地がある。
- ・ 現在の科学技術基本法は科学を基礎にした技術の発展を目的としており、最終的にはイノベーションに役に立たないものは振興の対象にならないという発想を持ち込むものではないかという危惧を抱いている。国の人文知に対する位置づけについて、人文科学に携わる人々がきちんと発言をしていくことが重要であり、「人文知応援フォーラム」においてもそうした問題を含めて取り上げてほしい。
- ・ 工学系、数学系の人には人文学を軽視する人もいるが、他の機構と横に並び、人文知や人間を考える・知ることがどのようなことなのかを、強く発信してほしい。
- ・ A I 研究者には人文関係の学問に知識あるいは共感を持っている人も多く、そうした人の力も借りて活動してほしい。

以上